

技能評価システム移転促進(SESPP)事業

## 事業実施報告書【ベトナム】

- ◆2018年2月5日(月)～9日(金)
- ◆ベトナム・ハノイ  
Hanoi College for Electro-Mechanics (HCEM)
- ◆シーケンス制御作業2級評価者講習
- ◆シーケンス制御作業2級技能評価トライアル

平成30年2月

## 1. 事業の全体概要

(実施期間) 平成 30 年(2018 年)2 月 5 日(月)～9 日(金)

①評価者講習(2/5～7) ②技能評価トライアル(実技試験、2/8～9)

(実施場所) ベトナム ハノイ

Hanoi College for Electro-Mechanics (HCEM)

(職 種) シーケンス制御作業 2 級 評価者講習

シーケンス制御作業 2 級 技能評価トライアル

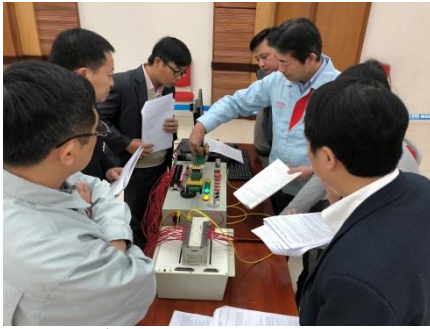
(講 師) ・内山 聡氏

(受講者数) ①評価者講習 5 名

②技能評価トライアル 10 名

(実施日程)

日時	活動名(指導内容)	
2 月 5 日(月) 8:30～16:30 【評価者講習】	開講式 ① SESPP 事業について ② 日本の技能検定制度について ③ 評価者の役割と責務 ④ シーケンス制御作業について 課題の作成(実技試験、ペーパーテスト)	「シーケンス制御作業」技能評価者テキストを用いた座学と実技を併用した講習
2 月 6 日(火) 8:30～16:30 【評価者講習】	① 採点要領の作成 ② 実施要領の作成	・トライアル準備計画・役割分担の決定 ・試験問題の読解・翻訳の調整
2 月 7 日(水) 8:30～16:30 【評価者講習】	① 技能検定の運営について ② 必要な備品について ③ 試験用機器、機材の整備状況のチェック ④ 実技試験の機材確認準備	・翌日のトライアルの準備・最終確認 ・検定運営リハーサル(ロールプレイ)
2 月 8 日(木) 7:30～17:00 【技能評価トライアル】	実技試験(1 回目:5 人) 学科試験(10 名全員) 振り返り及び改善反映 実技試験の機材確認準備(評価者:翌日のトライアル準備)	開始時間:8:00、 採点作業 開始時間:10:30 ペーパーテスト(60 分):13:00(10 人) 学科試験(100 分):14:30(10 人)
2 月 9 日(金) 7:30～17:00 【技能評価トライアル】	実技試験(2 回目:5 人) とりまとめ及び総括	開始時間:8:00 採点作業 開始時間:10:30



## 2. 総評

### ◆ 総評

- ・技能評価者5名の育成、トライアルを運営できるまでの手法を教育。この5名が今回の評価者講習で取得した知識・手法を実践し技能評価トライアルを評価者として運営、大学より6名、企業より4名が受検者として合計10名が参加。1名がシーケンス制御2級に合格。
- ・育成対象者の評価者は非常に前向きでやる気を感じた。始業・就業のミーティングもきちんとでき、時には休憩時間を割いてトライアルの準備や評価法、試験問題について議論を行う場面もあり熱心に取り組んでいた。
- ・評価者講習では評価者達が協力して実技試験問題の翻訳の精度や専門用語の調整・修正を熱心に議論、トライアルを円滑に進める準備を行った。出題表現の正確さや問題の理解・読解が重要になるシーケンスでは不可欠な作業である。
- ・受検者のレベルにはかなりの個人差があるが、日系企業の現職技術者はそれなりの技術を持っている。

### ◆ 今後の研修について

- ・合格者は1名にとどまったが、3~4名は2級に近い実力があるように感じた、よって今後は2級以上の検定や、そのための学習をどのように進めるかを検討するべきである。  
評価者に関しては更なる能力の強化が必要である。このためには出題者の意図を理解し評価能力を向上させるため技術試験問題の作成講習である「技法研修」を行う必要がある。
- ・プログラミングの能力をもっと高めなければならない。
- ・トライアルはMITUBA,HANACANの企業から4名の参加者があった。ベトナムの日系企業からの参加者が増えるよう広報活動の必要性を感じた。
- ・安全面は設備・作業からリスクアセスメントを行いレベルアップをする必要がある。
- ・試験問題・課題の理解度が重要なウエイトを占める職種であるため、円滑に試験を行うにはどうしても評価者を交えた翻訳の微調整が不可欠である。そのための時間の余裕が必ず必要になる。
- ・配線作業等は普段から適切な工具を使用した正しい作業を習慣化させる必要がある。

